

感動した地区大会

山鹿 山下 善助

今期第三七〇、三七三連合地区大会が去る十一月熊本市で開催されました。私、近頃老いた故か涙もろくなつたような気が致しませんでした。それでもこれまで地区大会で涙した事はなく、この度の大会では二回程涙を止めることが出来ませんでした。これ即ち感動場面であり、良い大会であつたと思います。

第一は京都山科一燈園すわらじ劇団による「ポールハリスとロータリー」という劇であります。少年期のポールと青年期三人の友人と語り合い、ロータリー発足の記念すべき一

九〇五年二月二十三日の二幕でありました。

友愛と奉仕の精神、奉仕こそ吾が務めを自ら実践し、七〇年の伝統ある輝かしい今日のロータリーを築き上げた偉大なる人物ポールをはぐくんだものは果して何か。ポールは三歳にして両親を亡くし以来十五年間、祖父祖母の手元で育てられております。ポールを取巻く周囲の環境のよかつた事もあります。特に祖母の愛情と教え、そして勇氣ある決断、これが今日のロータリーの源をなしているように思われてなりません。これからこそおばあさんの元で孝養をつくしたいと願うポールをさとし、祖父の遺言を守り、多くの人のため社会のため、弁護士になるよう大学で勉強することを、惜別の悲しみをのりこえ、ポールを送り出すこの老婆の心情を考える時、涙が溢れて仕方ありませんでした。教育の基本的土壌となる家庭教育の如何に大切であるかを今更ながら痛感させられました。

第二は特別講演、平岩弓枝先生の「日本のころろ」と題するお話であります。現在テレビの人気番組「女と味噌汁」のアメリカカケの話に始まり面白くお聞き致しましたが、後半七〇歳位の或る老夫婦の話がありました。

先生のお宅は神社なので高い石段がございます。毎朝この石段を老夫婦はお互いを労り合いながらお詣りされる信心家であります。

この風景を何回となくかいまみた原稿を取りにくる女性が曰く、何と仲睦いお幸せな御夫婦でしょう。私もあんな風になりたいものとしみじみ申すそうであります。平岩さんは子供の時からこの老夫婦と親しく、その境遇を全部知っておられるのです。三人のお子さん(大学出)を戦争と交通事故で亡くし、今はたった二人切りの淋しい御夫婦である。それでも事情を知らない人からみると誠に幸せそうに見えるのであります。その平凡なもの、平凡の裏に悲しみが喜びもある、また苦しみもある。そんなものを私はこれまで書いてきたし、この後も書き続けたい。平凡なものを私は大切にしたいと結ばれたのであります。私はふと思ひ出した歌に「只みれば何の苦もなき水鳥の足に暇なき吾が思ひかな」というのがあります。何のくつたくもないようにみえる水鳥も水中では一生懸命足で水をかき、吾身を支えているのであります。人間皆そうであらうと存じます。

幸せそうにみえるこの老夫婦も、これからもお互いを思いやり、労り合いながら淋しくとも強く生きてゆかれるのであります。思いやりの心、これが日本の心であり、ロータリーの精神であると考えます。先生の話上手もありましようが、感動の涙がほほを濡らしたのであります。